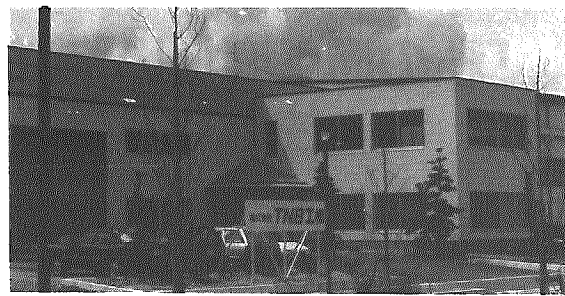


社員自身もマネージメントグループの一員として 経営者感覚を持ち限りない創造で生産性を伸ばす。



上から言われて動くのではなく、自主性、創造性が生産性に結びつくと言語る田辺社長



平均年齢33歳と若い労働力

社長いわく、上から言われ

移転前は、駐車場のスペースがとれないくらいであった。移転後は、第一、第三土曜日を休日としているし、今年度は、全体的に5日ぐらい休日を増やしたうえで、社員の労働条件向上についても積極的に取り組んでいます。ところで、従来の設備では3K(キツイ、キタナイ、キケン)であったが、エレクトロニクスを駆使して近代化を図っているため設備内容も若い人が喜んで働けるような作業環境を作るべく努力している。

- ### ■主な取引先
- 亀田町 (株) 資国製作所
 - " (株) 坂井機械製作所
 - 豊栄市 松山重車輻工業(株)

会社のあゆみ

昭和40年8月	田辺鉄工所として操業開始
昭和43年12月	法人(有限)に変更
平成2年3月	社名を現在の名前に変更し、法人(株式)になる
平成3年12月	木津工業団地に移転



最新設備で生産性も向上

人材育成と創造性を養い 部品加工から組立加工までの一貫性を追求

「工業団地を選んだ理由」
移転前は、手狭であったため環境がよくなれば雇用問題もよくなるのではないかとということがあげられる。
「村というイメージ」
横越という地名を知っている人には、問題ないが、新潟市方面から人材を採用する場合、「村」とか「大字」は、抵抗がないとは言えない。
「取り巻く状況」
移転前は、駐車場のスペースがとれないくらいであった。移転後は、敷地面積も4倍になり、それも解消され、環境も明るくなった。また、機械自体の大型化にも対応できるようになり、喜んでる。
「社長の夢」
現在、部品加工を中心に行っているが、それを組立加工までの一貫作業にもっていきたい。業績を伸ばしていきたい。
「21世紀に向けて」
社員は、平均年齢33歳と若いので、企業内外教育、訓練をしていく。
人が会社をつくるもので、機械は、最終的には、人間が操作するものである。すぐれた人材、技術を習得させることにより生産性を上げていきたい。
また、現在、第一、第三土曜日を休日としているし、今年度は、全体的に5日ぐらい休日を増やしたうえで、社員の労働条件向上についても積極的に取り組んでいます。

●会社の概要

最後に、木津方面は、交通機関がないので、木津工業団地は、ほとんどマイカー通勤で中には、同乗してきている方もいるから、将来的に通勤時と退社時に新潟方面からの既存の交通機関の乗り入れを要望しておられました。

従業員数 20名 (横越在住3名)
製造

資本金 一、〇〇〇万円
年商 平成3年度見込 2億2千万円

社会教育ガイド

5月の中央公民館事業 〈会場は中央公民館〉

- 絵画教室
期日 5月11日(月)、25日(月)
時間 午前10時
講師 上野キミ氏
- 生活学校
期日 5月15日(金)
時間 午前9時30分
内容 開講式
- 婦人大学・家庭教育学級
期日 5月20日(水)
時間 午後1時
内容 開講式
記念講演
講師 高橋ハナ氏
- 古文書解説講座
期日 5月8日(金) 22日(金)
時間 午後1時30分
講師 新津市 石川新一郎氏
受講料 500円
- 高齢者大学
期日 5月26日(火)
時間 午前10時
内容 開講式

早起野球大会

申し込みは5月12日まで (必着)

▼出場資格
。本村に現住所を置く者
。本村に在する事業所に勤務

▼申し込み
5月12日まで参加費二千元を添えて中央公民館へ

▼組合せ抽選会
5月14日 午後7時30分
横越村中央公民館

▼試合期日
5月21日から

▼決勝大会
6月7日(日) 〈予定〉
※申し込み用紙は中央公民館に用意してあります。

春の文化祭

期日 五月二十日(二十一日)
場所 横越村中央公民館
内容 さつき展・その他

'91親善のかけはしリレーマラソン 姉妹村の友情ビデオが完成

横越村のマラソン愛好者の発意で横越村体育協会が中心となり、美浦村親善リレーマラソンが行われました。

ランナーは20代から60代までバラエティに富んだ19人で10月4日早朝5時出発、6日午前無事、横越大祭招待のメッセージを美浦村長に手渡しました。

美浦村では、沿道に両村旗の小旗を振って歓迎する中を茨城県警のパトカーの先導で歓迎会場に着き、子供たちの鼓笛隊をはじめ村挙げての最大の歓迎をうけました。

このビデオは、横越村と茨城県美浦村のリレーマラソンを通じた姉妹村の交流の記録を30分にまとめたものです。(文は、ビデオパッケージの裏面より転記)

・ナレーター 樋口幸子 (NSTアナウンサーを経て現在フリーアナウンサー)

・企画 横越村・美浦村親善リレーマラソン実行委員会 横越村役場

・協力 株式会社石川商会、物井鉄工所

・制作 富士映像企画

・販売価格 一本二千元 (VHSカラー30分)

・販売先 横越村体育協会 (Tel 385-2043)

「横越花火」物語 ⑥ 昔我広見

私の当夜の花火に関する感想は、花火の色彩が極めて単調で同じような花火が続き、後半の花火は、正直のところ飽きを感じていた。

単発花火の多くは二彩若しくは三彩程度で、どうせやるならそれを五彩、七彩と色彩豊かな花火を、秋の夜空に打ち上げて、「ワァー、きれいな」と感嘆の声を一斉に発するようになってほしいものである。

より見事な花火、きれいな花火をあげることが出来るなら、「横越大祭」は、横越村民に永久的に定着するであろう。そう言った点には、実行委員会が苦勞して協賛者の参加を求めて、村中を駆け回る苦労もなくならないと思われ。

三寸玉の花火の価格が五千元、尺玉が四万五千元までなら決して村民個人の祝事記念をして支出できない金額でないと思考する。

私は、花火大会を観覧して「九十年前に上がった同じ花火でした」アナウンスを聞き、ワープロに向かう意欲が起きて、今後も花火大会をより盛大にしてほしい一念からいくらか脱線して所感を述べた次第である。

尚、私が観覧した最高の花火は、昭和十一年前後に見た「東京両国の花火」で、さすが江戸時代の昔から伝統のあるこの花火、土地自慢から日本一とも思い込まれていた「新潟の花火」も、やはり、花の大江戸の花火に及ばないと思ったものである。

要するに花火は予算に正比例するもので、金を多くかければ良い花火があげられるのであるから、村民の財布の開け次第で結果が決まるのである。(このシリーズ終り)

俳句

(公事作品 高次句者)

第一句	出稼の 帰る便りや 辛美咲く
第二句	花辛夷 土蔵に高き 窓ひとつ
第三句	一本の 辛夷に醒て いる岬
第四句	春眠や 米寿過ぎたる 母の嵩
第五句	春眠や 光るものなき 母の髪
第六句	花こぼし 葉屋のあと 鎌屋来る
第七句	春眠や 真綿の如き 母の声
第八句	こぼし咲かねば 変哲もなき 雑木山
第九句	水使う まで春眠の さめきらず
第十句	春眠や 土の匂いの 手の枕

横越中学校OBである者
▼申し込み
5月12日まで参加費二千元を添えて中央公民館へ

▼組合せ抽選会
5月14日 午後7時30分
横越村中央公民館

▼試合期日
5月21日から

▼決勝大会
6月7日(日) 〈予定〉
※申し込み用紙は中央公民館に用意してあります。